

## 29-4 経営協議会議事概要

日時 平成29年9月22日（金）13:30～15:20

委員 駒田学長（議長）

青木，志田，銭谷，西岡，向井，村本

山本，鶴岡，尾西，尾藤，伊藤 各委員

列席者 富樫，野崎，橋本，松田，堀，吉本 各副学長

服部監事，山中監事

### ◎議事概要の確認

29-3の議事概要(案)について，了承された。

### I 審議事項

なし

### II 報告事項

#### 1. 平成30年度概算要求事項について

尾藤理事から，「資料1」に基づき，平成30年度概算要求計数確認時のポイントについて，文部科学省から財務省への概算要求事項より，運営費交付金関連として，機能強化促進係数（ $\Delta 1.2\%$ ）による影響額，機能強化経費（機能強化促進分），教育関係共同実施分（勢水丸），基盤的設備等整備分，寄附金等外部資金活用促進経費，電子ジャーナル整備支援分，附属病院機能強化分，設備サポートセンター要求（事項落ち），法人運営活性化支援分，戦略的教育研究環境改善経費，国立大学機能強化促進費，授業料等免除と年俸制導入促進費分についての説明及び，施設整備費概算要求関連として，施設整備費のうち，本学の要求3事業についての説明があった。

また，席上配付資料により，文部科学省資料による「国立大学法人に対する支援の充実」における「人づくり」のための知の基盤の強化，「国立大学の機能強化を目指した先導的取組の事例（新規組織整備）」に本学の計画が取り上げられている旨の紹介があった。

## 2. 三重大学のグローバル化戦略について

堀副学長から、前回の経営協議会にて三重大学グローバル化戦略の方向性について意見交換を行い、その際に、この先10年程度の三重大学のグローバル化戦略を立案中である旨の報告をしたところであり、今回はその内容の報告をする旨の説明があった後「資料2, 添付資料」に基づき、三重大学のグローバル化戦略について、戦略の立案の方法、数値目標の設定方法、主な戦略及び具体的な数値目標についての説明があった。

### <主な意見>

- 生産年齢等人口が減少し、高齢化が進むといった現象は、大学経営のみならず、産業界共通の大きな課題となっており、そうした環境下での成長産業を目指すには、グローバル化は最重要かつ不変であると考えており、大学のグローバル化については、具体的には、海外の大学との教育連携、海外キャンパス、海外拠点の設置等、三重大学としての国際ネットワークの構築が重要であり、これらの事業を推し進める人材の育成・確保が必要となるほか、特に、アジアにおける三重大学の存在価値を高め、教育・研究等発信していくことが大切であると思う。
- 三重大学には、世界各国の学生との交流を進めると同時に、アジアでのリーダーシップを発揮し、アジアからの留学生の門戸を広げ、英語は世界共通語であるが、同時に日本語教育にも力を入れて留学生が母国に帰った後の人脈ネットワークに役立たせていただきたい。
- アジアの急成長・中国の発展に伴い、世界からのインバウンド（訪日外国人）来訪等、日本を取り巻く環境は、グローバル化を避けて通れない。つまり、産業界は、産・学・官が連携して、日本の産業革命を推し進める上で、グローバル化は必須であり、大学の占める役割は、はかり知れないと考えている。
- グローバル化と国際化をどのように使い分けているのか。  
→インターナショナルゼーションというのは国と国との関係であったが、今はそういう時代ではなくて国を超えて地球規模で、ものを考えなければならなくなっており、人とかものの動きは国と国との間だけでなく動いているので、そういう意識を学生達に持たせるという意味でグローバル化という言葉を使っている。

○学部教育でも、やはりグローバル教育となった時には語学教育だけでは不足していると思うがそのあたりを三重大学の中で、学部で縦割りではなく、留学する学生が基礎的なグローバル教育をやっていく考え方として、大きくどういう内容を入れながら、どういう能力をその中で持ってもらった人を、基礎教育の中にいれておいて、そして海外でのインターンシップに持っていくときに研究の方に持っていくのかということところが大きな全体を見ていくときに考えられるかと思うがいかがか。

→国際化教育の中での語学教育の位置づけ、或いは語学教育だけでは不十分ではないかとの指摘であると思うが、もちろんそのとおりであり、我々もそう考えてはいるが、やはり語学を身に付けることというのは非常に重要であることには間違いのないことで、上手に流暢にしゃべる必要は全くないが、外国語でコミュニケーションをとれる力ということは極めて重要であると思う、アジアにはアジアのそれぞれの国の英語があり、そういうものも対応できるような能力も必要であると思っている、三重大学の場合、語学教育は教養教育機構で教養教育の中でのグローバル化ということで語学教育を強化しており、まず第一歩はそこであり、特に専門課程に進んだ後、それぞれの専門分野での専門英語が必要になってくる。

例えば理系3学部においてはそこで使われる専門用語を駆使できるような能力が求められているので学部の2年生以降にはそれぞれの部局で専門英語教育が行われている。特に専門英語教育では語学を教えるのではなく、専門的な知識を得るため、或いは専門的な知識を交換するためのツールとして専門英語教育を学ぶという形でやっている。

学問には国境が無いのでそういう形で色々な事は教えられていっており、国際的な活動としてどういうものがあるかという教育もされていると思う。そういうことを肌で感じるために外国から教員を招聘して、外国人の教員に授業を担当してもらい、実際に英語で授業をしてもらうなど、そういうことが必要であると考えていて、三重大学独自の予算で外国人教員短期招聘プログラムというものも、ここ数年やっているものでそういう形での教育も並行してやっている。

○非常にコミュニケーション力は重要であり、それだけではなく並行して、能力として自分が何処に行っても自分のことが言える能力が求められており、自分のことは自分で出来るとか、表現できるとかといった能力を、同時に学部の時のグローバル教育の中には基礎能力として

入れていくことが重要であると考えている。

→コミュニケーションの力の中には意識，自身の中での動機付けといった，計りづらい部分があるが，そういったところを教育することも大学の役目であり，そのためには外国人との接点を持つということは学内外・国内外で必要であると考えている。

○留学生の受入だけではなく，長期でなくとも短期も含め，多くの三重大大学の学生に海外に行ってもらおうということが非常に大事であり，アメリカ，ヨーロッパはもちろんであるが，アジア太平洋地域の諸国にできるだけ留学してもらい（おそらく我々が思っている以上に今のアジア諸国は発展している），交流を深めると非常に良いと思う。

○協定校等機関とあるが何大学くらいあるのか。

→大学間と部局間との2種類があり，百十数校である。

○多すぎるということはないのか。

→同規模の国立大学と比較すると，多い方だと思う，本学の規模からすれば50～100の間が相当であると思うが，これは各教員の努力の結果であることには間違いない。

○語学教育について現在，高校以下の学校団体で最大の課題となっているのが小学校の英語の問題であり，日本中の小学校が対応に苦慮している。誰が教えるのか，人材の確保は，教材をどうするのか，中学校，或いは高校への繋ぎはどうするのか，といった様々な課題がある中で，例えば，三重大大学であれば附属学校が併設されているのでそういうところまで巻き込み全学をあげて，小学校から大学までの英語教育の三重大大学スタイル（モデル教育）みたいなものを考えてはどうか。

→国際交流を担当する副学長としての回答範囲ではあるが，現時点では，留学生を県内の小中学校，或いは幼稚園も含めて派遣をする活動をしているが，実際に具体的な教育カリキュラム，教育プログラムに参画できるかというハードルが高いものであり，それが今後の課題でもあると思っている。

○コミュニケーションの問題の中では，「英語で話す」，「自分の意見を言う」ということは大事ではあるが，どう意見を交換するのか，ディスカッションの在り方とか，そういったところは日本であまり出来ていないと思うので，そういうことを含め三重大大学でやっていければ，三重大大学モデルというところの構築に色合いが添えられるのではないかと思うので，検討していただきたい。

○大学4年間のうち2年間は教養課程であるが、その2年間で上手く活用し、その内の1年間（半年くらいではあまり意味がない）を、語学研修を含め、大学から奨学金を出し、留学生制度という形をとるといいのではないか。

また、今は4年間で卒業し就職するというのが普通であるが、最近の大きな会社では、より専門知識を持って就職するという、そういう人を採用する高度な会社も増えてきており、途中入社の人でも、ある地位に就ける（海外では普通である）といった時代になってきているので、そういったことも考えてみてはどうか。

○グローバル化が進んでいくことは良い事であると思うが、そういう中で、外国から留学してくる人達の良識、知識力、知的レベルといったところで、どんどん広がった時に、問題が起こってくるようなことはないのかと少し心配するところである。

→三重県の高等教育機関、大学高専も含めてネットワークを持っており、色々な話し合いをしている中で、一部私立大学において定員割れを埋め合わせるために、海外からの留学生を受け入れざるを得ないという状況下で、留学生の質の問題は発生していると聞いているが、本学の場合は、パートナーとなる海外大学はそれぞれの国の上位校であることが多く、そういうところからの信頼関係に基づいて留学生を派遣していただいているので現時点ではそういう大きな問題は起きていない。

○人文学部・人文社会科学研究科に関しての学生は、海外の語学研修、海外就職スタディみたいなことを実施するというのは非常によいと思うが、所属している学生は全員が海外へ出ることが前提で考えているのか。

→カリキュラムとして、全員が海外へ出るというカリキュラムとはなっていないと思うが、長期（1年以上）の留学に出る学生は人文学部の学生が多く積極的である。

○グローバル化は絶対必要であり、たとえ短期でも経験（日本に住んだ、大学に行った）してくることで質が違ってくる。三重県にも本田技研をはじめとした世界のグローバル企業があるのだから、そういう企業等を活用し、帰国した後の様々な形の交流を行う等（現地の日本企業への就職）、大学だけに考えず企業も含めて検討してはどうか。

○優秀な留学生が来るといい刺激になるので留学生の数も大事であるが、質も問いたいところである。そこで、留学生にとって三重大学に来たら、他の大学には無い魅力というのはなにかあるのか。

→留学生の話を見ると、それぞれの大学で優秀な順に行き先が決まり、東京などの大都市圏を希望する学生が多いと聞くと、その中でも長期の留学の前に、短期でも三重大学への訪問経験があって三重県の良さを知ったので、最初から三重大学を希望したという留学生もいるので、まずはここに来てもらう、三重大学を知ってもらうというところから始めることが大切であると思っている。

○なにかプログラムがあってそれが魅力的なものであるとクチコミも広がるのではないかと、そこにはそんなにお金をかけなくていいと思うので、是非スペシャルプログラムを作ってくださいというと思う。

→例えば「忍者を学ぶために三重大学に来た」というような感じで、こういう特徴のある、尖っているところがあるから「三重大学に来なさい」といった惹き付けるような魅力があるのが三重大学であり、プラス三重県という地域のすばらしさもある。やはり三重大学にそういった魅力がないといけないと思っており、大学全体の文化作りとともに各専門分野での特色作り、惹き付ける魅力作りも併せて作っていかなくてはならないと考えている。

### 3. その他

#### (1) 次回開催について

平成29年11月24日（金）13：30から開催することのほか、資料についてはPC利用（資料のペーパーレス化）により実施することを確認した。

## Ⅲ 意見交換

1. 「目指すべき人材像」の策定と「3つのポリシー」の点検について  
山本理事から、「資料3」に基づき、全学で「目指すべき人材像」の策定及び「アドミッションポリシー」、「ディプロマポリシー」、「カリキュラムポリシー」の3つのポリシーの点検作業についての経緯、概略についての説明があった後、種々意見交換を行った。

#### <主な意見>

○キャリア教育に7年携わってきているが、三重大学の学生は、考える力、感じる力、コミュニケーション力、生きる力を認識している学生が多く、他の大学と比べてここまで差があるのかと感じている。

特に三重大学の場合は医学部で医者になって貢献したい、教育学部

で先生になって教えたいと、学部そのもののスタートがしっかりしている人が多いと思うので、あまり細かくしなくても、チェックしながらやればいいのではないかと思う。

- 三翠ということが非常に大事なことで、伝統があるということは大事なことであるので、こういうことがあれば、それ以上そんなに考えなくていいのではないかと思う。
- 大事なのは、特色ある学部があり、先生がいて、授業をするのが一番であると思う。そうすればこのままの3つの柱で十分であると思う。
- この4つの力とは人間の基礎力であり、三重大学に来ると人間基礎力が必ず身に付き、地域社会に貢献する、国際社会に貢献するという、人材を三重大学は輩出していきますということを、少ない言葉で明確な言葉で出していくということがいいのではないかと思う。
- 地域社会というものを三重県とはっきりと打ち出してもいいと思うし、三重県への貢献であったり、大きく国際社会に貢献するということをはっきり明確にして、それをできるための人間基礎力を三重大学はしっかり身につけさせますという発信もいいのではないかと思う。
- こういうことを突き詰めていく時には、不易流行のような、変えなければいけないものと、変えてはいけないものを整理しないといけないと思っており、三翠というのは歴史のすごく重要なキーワードのような気がするので不易の部分であり、これが変えてはいけない部分になるのかもしれない、流行のところは時代によって変えていってもいいのではないかと思う。そんな中であまりたくさんの言葉が出てくると言葉遊びになってしまって、何のことかわからなくなってしまうので整理が必要であるが、地域貢献という言葉も今のキーワードであり、ここでは直接触れられてはいないが、今、社会から求められており、しかもグローバルな視点が求められていて、クリエイティブであること、イノベティブであることというところには必要なキーワードではないかと感じている。
- 三翠というのはすごく綺麗でいいと思う。大学の歴史として掲げておくことは非常にいいと思う。

昔から理想の人間像とは真・善・美を兼ね備えた人、知・徳・体が備わっている人といわれるが、今回一番近いのは、知・情・意ではないかと思われる。今まで使っている考える力は知、感じる力は情、コミュニケーション力は意であり、その3つは入っており、人間として非常に理想に近いと思う。ただ、生きる力はこの3つに並べるより

は、それらを合わせたものが生きる力であると思う。

考える力、感じる力、コミュニケーション力をベースにしながら、大学生として社会人の基礎力をしっかり身に付けた大学生を育てること、という意味では非常に良くできていると思う。

○地域（三重県）における各分野でリーダーシップを発揮する人材には、地域に対する強い愛情を持ってもらうことが重要であるので、そのことを要素に入れてはどうか。

以上